財務ハイライト

平成20事業年度決算

■ 貸借対照表の概要

（単位：億円）

資産の部

土地	1,660
建物等	1,361
備品	285
図書	324
建設仮勘定	58
投資有価証券	76
長期性預金	26
現金及び預金	95
有価証券	322
未収入金	59
棚卸資産	4
その他	36
資産合計	4,306

負債の部

資産見返負債	621
借入金	265
長期未払金	172
寄附金債務	179
未払金	225
その他	80
負債合計	1,542

純資産の部

資本金	2,445
資本剰余金	66
利益剰余金	185
当期未処分利益	68
純資産合計	2,764
負債・純資産合計	4,306

（中央）附属図書館改修
（中央）総合研究1号館等改修　他

約636万冊所蔵
約11万冊（約5億円）増

国債・地方債等

大口定期預金
（満期まで一年以上のもの）

国立大学・財務経営センター債務負担金　約243億円
長期借入金　約22億円

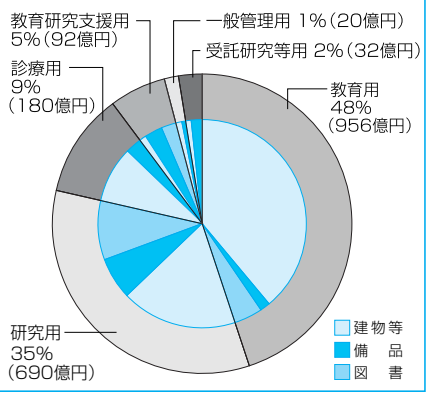
PFI事業の未払金
（桂）　総合研究棟V
（桂）　福利・保健管理棟
（南部）総合研究棟
（北部）農学部総合館改修

国から出資された土地、建物、備品等の見合い額

16～19年度の利益剰余金

20年度に発生した利益剰余金＝当期総利益

■主な固定資産の目的別内訳
（建物等、備品、図書：合計1,970億円）



平成20事業年度末の貸借対照表の概要は上記のとおりです。これに関連して、特筆すべき点は以下のとおりです。

■建物等　1,361億円（1億円減）

建物等約1,361億円は、建物等の取得価格約1,880億円から減価償却累計額等約519億円を控除した額です。

平成20事業年度は、施設整備事業として行った（中央）附属図書館の改修および（中央）総合研究1号館等改修と、寄附による稲盛財団記念館等により約82億円の増となった一方で、減価償却累計額等が約83億円の増となっています。

■備品　285億円（56億円増）

備品約285億円は、備品の取得価格約698億円から減価償却累計額約413億円を控除した額です。

平成20事業年度は備品が約141億円の増となった一方で、減価償却累計額が約85億円の増となっています。

■建設仮勘定　58億円（23億円増）

建設仮勘定とは、有形固定資産を建設する際に発生した原価を、建物などが完成し事業の用に供するまで一時的に整理するための勘定科目です。平成20事業年度はiPS細胞研究拠点施設新営工事および耐震対策事業等により、約23億円の増となっています。

■有価証券　322億円（38億円減）

短期運用を行っている譲渡性預金等の額です。投資有価証券や長期性預金と併せて資金を運用しており、これらの年度末残高合計は約22億円増加しています。

■借入金　265億円（23億円減）

借入金には、国立大学財務・経営センター債務負担金（約243億円）と長期借入金（約22億円）があります。

国立大学財務・経営センター債務負担金は、法人化以前に財政融資資金を財源として取得した附属病院の資産等に係る借入金で、償還期限は平成37事業年度です。

長期借入金は、法人化後、附属病院の設備充実のため国立大学財務・経営センターから借り入れたものです。

■寄附金債務　179億円（50億円増）

寄附病棟に係る寄附金の受入（約35億円）に伴い債務が増加しています。

■資本剰余金　66億円（14億円減）

施設費補助金等による固定資産の取得により約56億円増加した一方で、損益外減価償却累計額が約70億円の増となっています。

■利益剰余金　185億円（43億円増）

16～19年度の当期総利益の累計額で、経営努力認定を受けた目的積立金約74億円と、それ以外の積立金約111億円からなります（5ページ参照）。目的積立金は、「京都大学重点事業アクションプラン2006～2009」に沿って、計画的・戦略的に活用していくことになります（8ページ参照）。